

平成24年度 公益財団法人大阪市博物館協会の外部評価

大阪歴史博物館の運営状況(総括)

【自己評価シート1】

館・所の使命

「歴史と対話し、現在、そして未来を考える」

大阪に住む人たちをはじめとし、すべての人たちに対して、この地で培われた歴史遺産・文化遺産に基づき、これまでの蓄積を踏まえながら、より広い観点に立って充実した活動をおこなう。それを通して、ともに都市大阪の歴史に対する理解を深め、「歴史との対話」を常に大切にしながら、現在の社会・文化を考え、よりよい未来の創造をめざす。

指定管理期間の重点目標

1. 大阪の歴史と文化に関する博物館としての基本機能を強化。
2. 繰り返し訪れたいくなる、魅力的な博物館をめざす。
3. 都市大阪にふさわしい、さまざまな来館者に応えられる博物館をめざす。
4. 学校教育や生涯学習を支援し、市民とともに歩む博物館をめざす。
5. 国内外の博物館や隣接施設と連携し、多様な活動を展開する。

運営状況の指標

	平成21年度(参考)	平成22年度	平成23年度	平成24年度
職員総数(7/1現在)		27	28	31
市派遣職員		14	13	13
市OB職員		1	1	2
固有職員		6	6	6
契約職員		6	8	9
嘱託職員		0	0	1
収蔵品数(3月末現在)	116,511 ( 1,124 )	118,882 ( 2,371 )	121,333 ( 2,451 )	123,374 ( 2,041 )
購入	19,018 ( 1 )	19,021 ( 3 )	19,025 ( 4 )	19,030 ( 5 )
寄託			15,366 ( 0 )	15,801 ( 401 )
寄付	91,194 ( 1,123 )	93,562 ( 2,368 )	96,009 ( 2,447 )	98,045 ( 2,036 )
博物館事業参加者総数	332,390	350,818	368,886	384,006
常設展 展示替回数(決算)	41回	31回	24回	37回
入館者数	180,558	203,030	238,783	259,131
特別展 回数(決算)	4回	5回	5回	4回
入館者数	107,347	109,435	89,677	100,366
その他事業参加者数 ※	44,485	38,353	40,426	24,509
収入総額(千円)	—	675,051	691,075	667,574
市からの委託費	—	588,596	591,190	568,043
自己収入・その他	—	86,455	99,885	99,531
支出総額(千円)	—	668,623	692,097	636,970
管理費	—	589,554	596,546	565,262
事業費・その他	—	79,069	95,551	71,708
収支差額(千円)	—	6,428	▲ 1,022	30,604

《備考》 ※ 「その他事業」の主な事業名

主催・共催の講演会・シンポジウム・映画会・音楽会・見学会など

## 大阪歴史博物館の特徴

## 【自己評価シート2】

### 館の強みをどのように認識しているか

- 難波宮と大阪城という二つの史跡に隣接し、大阪の歴史学習にふさわしい立地。
- 考古(9名)を中心に、歴史(5名)・美術(3名)・民俗・芸能・建築(各1名)と、幅広い分野の学芸員(20名)。
- 52年間に蓄積した大阪の歴史と文化に関する12万点の実物資料や13万冊の図書を収蔵。
- 館主催の共同研究や科学研究費などの外部資金による調査研究により、館の研究活動を維持・向上。
- 200名を超える博物館ボランティアなど、館を支える人の輪と支援組織。
- 上町台地や考古学と関わり、館と連携したさまざまな事業展開の可能性をもつNPO法人の存在。

### 館の弱みをどのように認識しているか

- 利用者促進のための中期的・総合的なマネジメントの不足。
- 情報システム機器・映像機器・展示情報端末・音声ガイドなど、開館当初から導入の各種機器類の老朽化。
- 新規収蔵品の増大による、大量一括資料のための収蔵スペースの不足。
- 実物資料の展示ケースの不足(10階・7階)。
- 学芸課事務の執行補助体制の不足。

### 環境(館を取り巻く諸条件)の変化をどのように認識しているか

- 上町台地を中心にマンション建設が進展し、地域の歴史やまちづくりに関心を持つ新たな住民の増加。
- 大阪の町を歩き、身近な地域の歴史を学ぼうとする市民の増大。
- 定年後の地域貢献として博物館でのボランティア活動を志向する高齢者の増加。
- ブログ・ツイッター・フェイスブックなど、双方向の情報収集・発信手段の急激な変貌・拡大。
- 少子化による博物館利用の児童生徒数の減少。

### 指定管理期間の成果

- 話題性のある展示更新や学芸員による展示解説、HPでの情報発信などによる、常設展示の充実と観覧者の獲得。
- 淀川展・日欧サムライ展・地震展など、自然史博物館・大阪城天守閣・大阪文化財研究所との連携展示の実施。
- 大阪大学との「懐徳堂展」の共催や、大阪市立大学との「古文書講座」の共催など、大学との連携事業を実施。
- 文化庁の補助金により、難波宮について館内外で学べるアプリケーションを開発・公開し、試験運用を開始。
- 外部資金にもとづく調査成果の反映により、淀川展の展示内容を充実。

### 今後の課題として考えていること

- 老朽化した機器類や映像ソフトのリニューアルや展示ケースの導入。
- 常設展示の魅力向上と効果的な情報発信。
- 学校団体利用に対応できる体制づくり。
- 観光客の利用促進とそのためので広報宣伝。
- 展示解説パネル等の外国語対応。

1行以内に記入、項目数は、4～5程度